

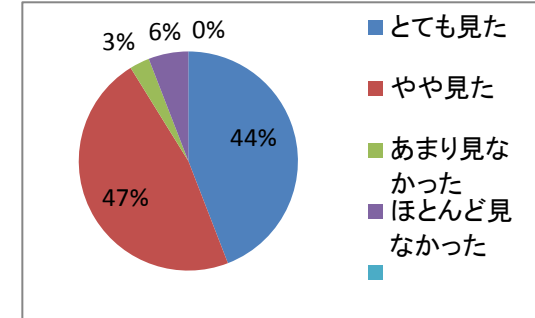
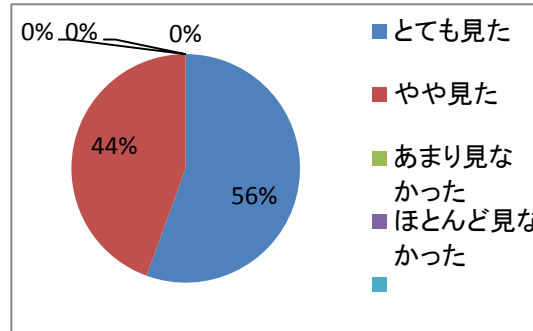
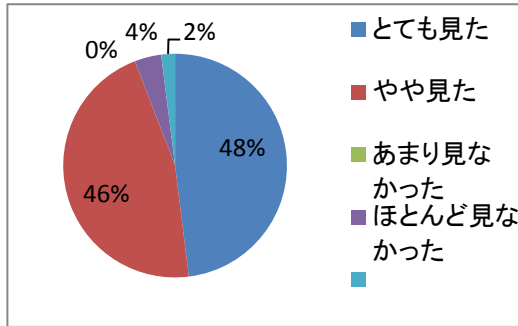
全体

現職

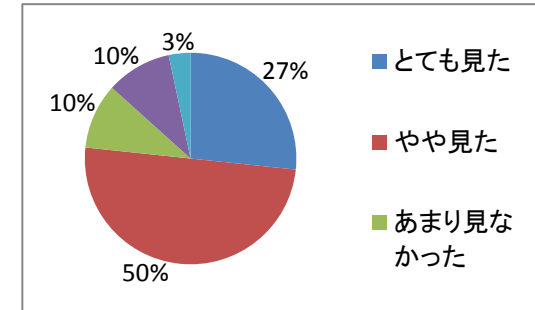
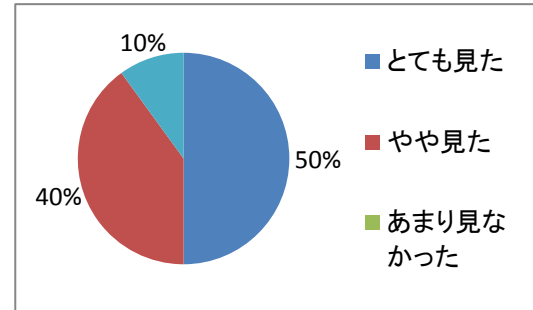
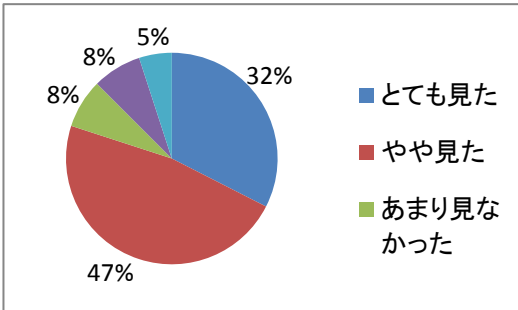
学部卒

Q1 授業を受講するにあたって、シラバスを見ましたか。

前期

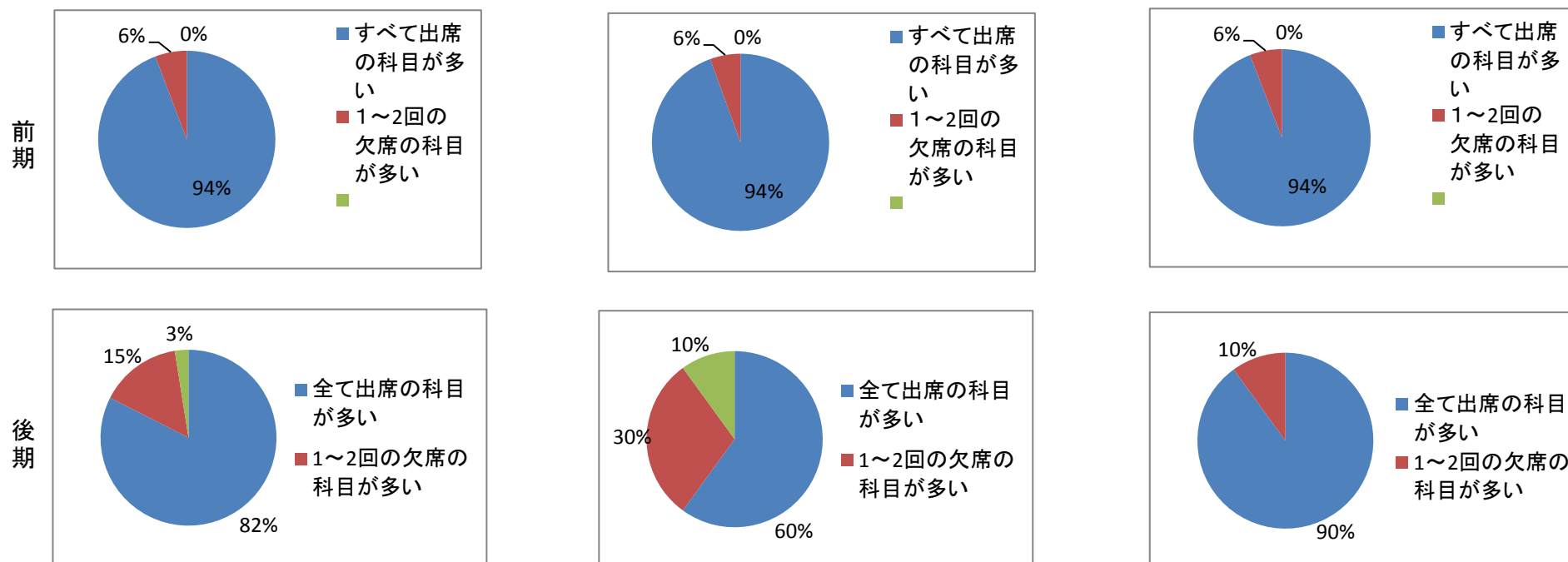


後期



「とてもみた」「やや見た」が、前期94%か後期79%に減っています。後期は前期ほどシラバスを参照しなかったようです。

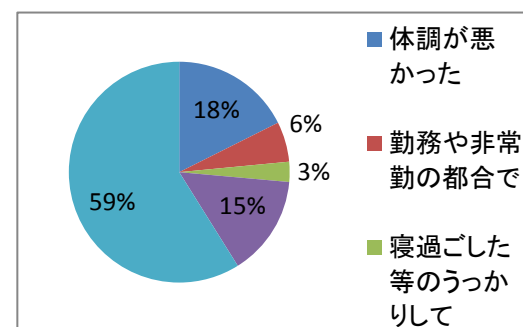
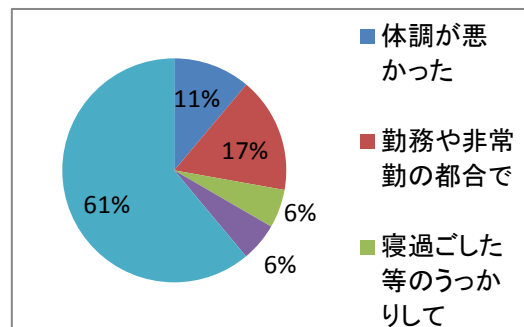
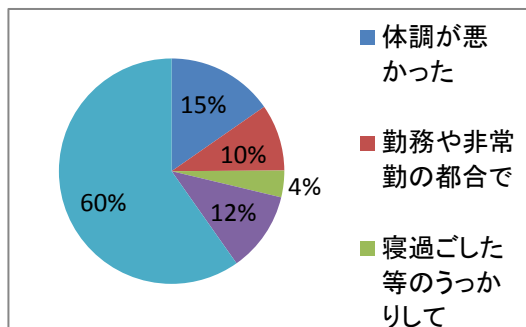
## Q2 授業へのこれまでの出席状況



「すべて出席の科目が多い」が、前期94%から後期82%と低下しています。理由はQ.2-2で問うていますが、無回答が多いためよくわかりません。大学院にも慣れ気の緩みによるものかもしれませんが、前期より若干欠席が増えていることだけはいえます。

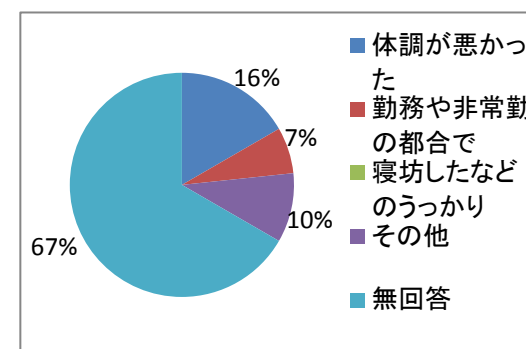
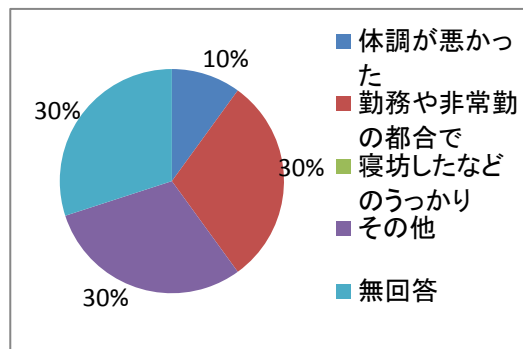
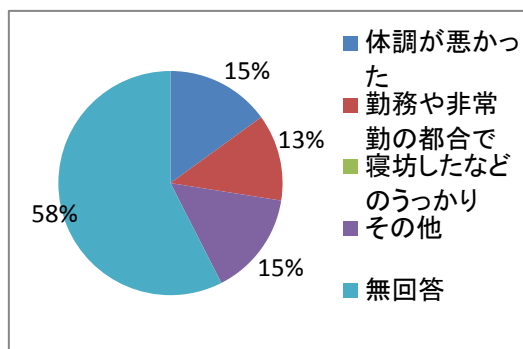
Q2-2 どのような理由で欠席しましたか

前期



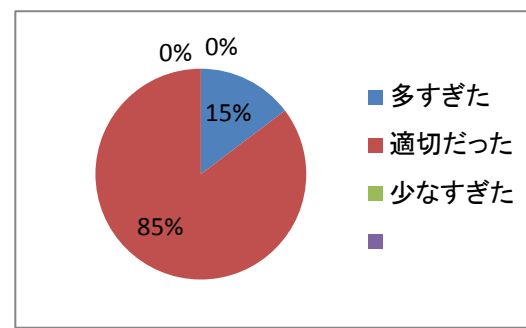
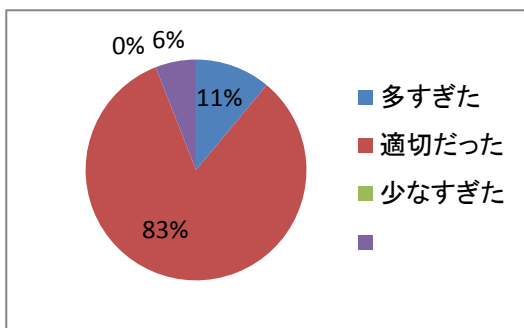
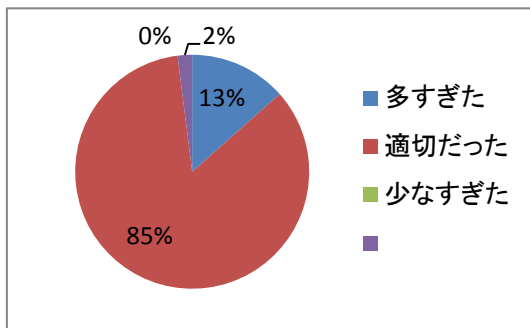
院生の欠席は全体に少なく、例え欠席したとしても1科目につき1~2回となっています。その理由は、体調不良や勤務や非常勤の都合によるものですが、無回答が6割近くに

後期

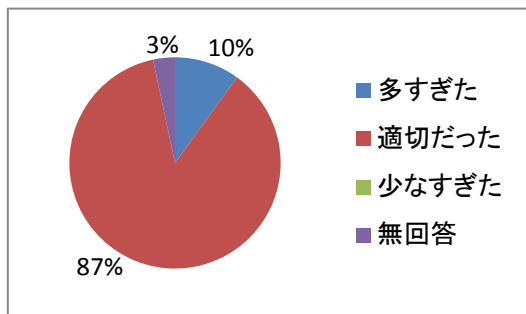
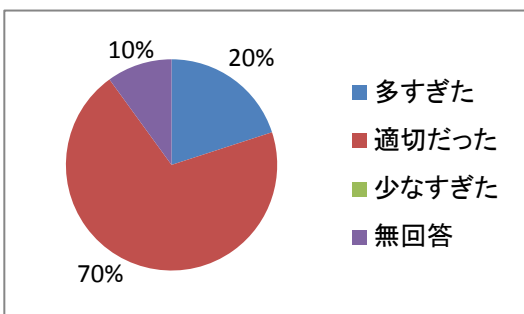
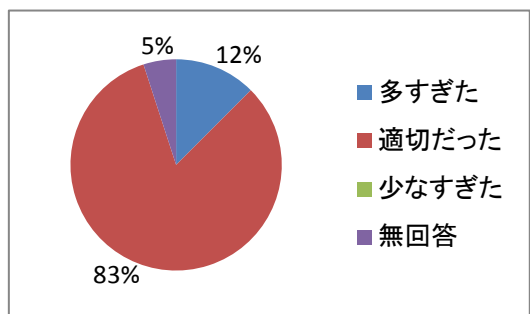


Q3 授業の受講人数は全体に適切でしたか

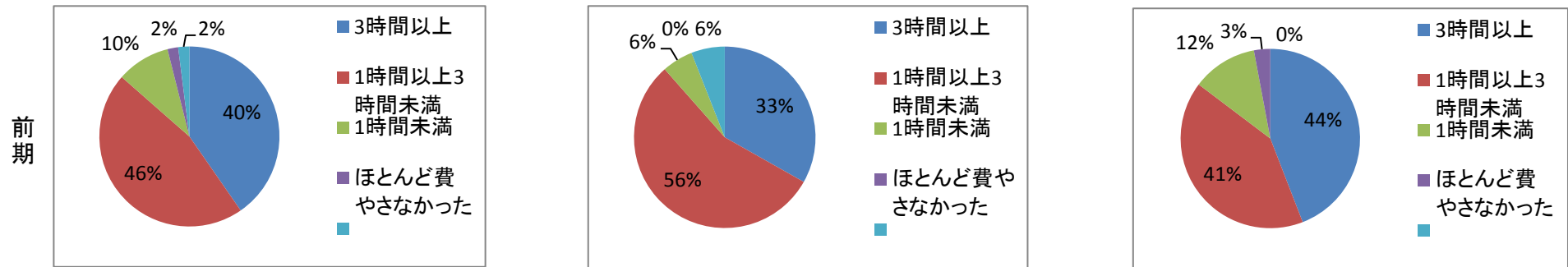
前期



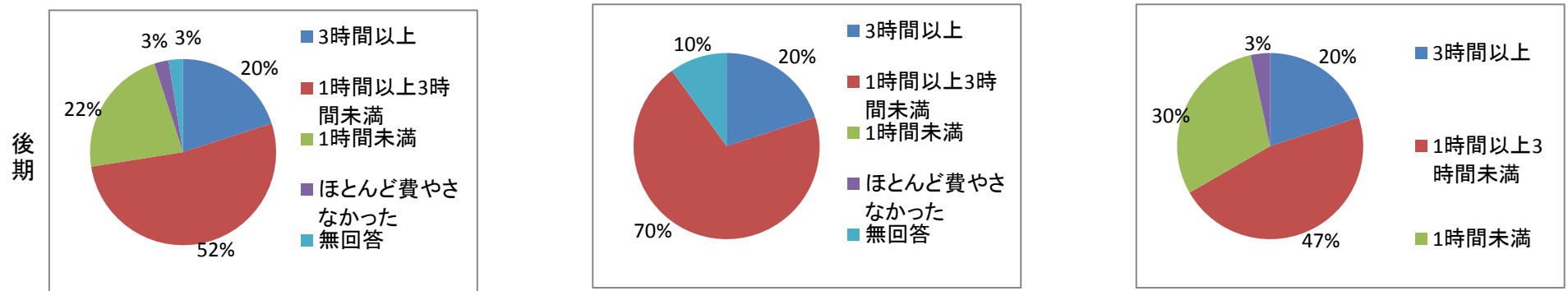
後期



Q4 授業以外に、1科目に費やした学習時間は1週間あたりどの程度ですか

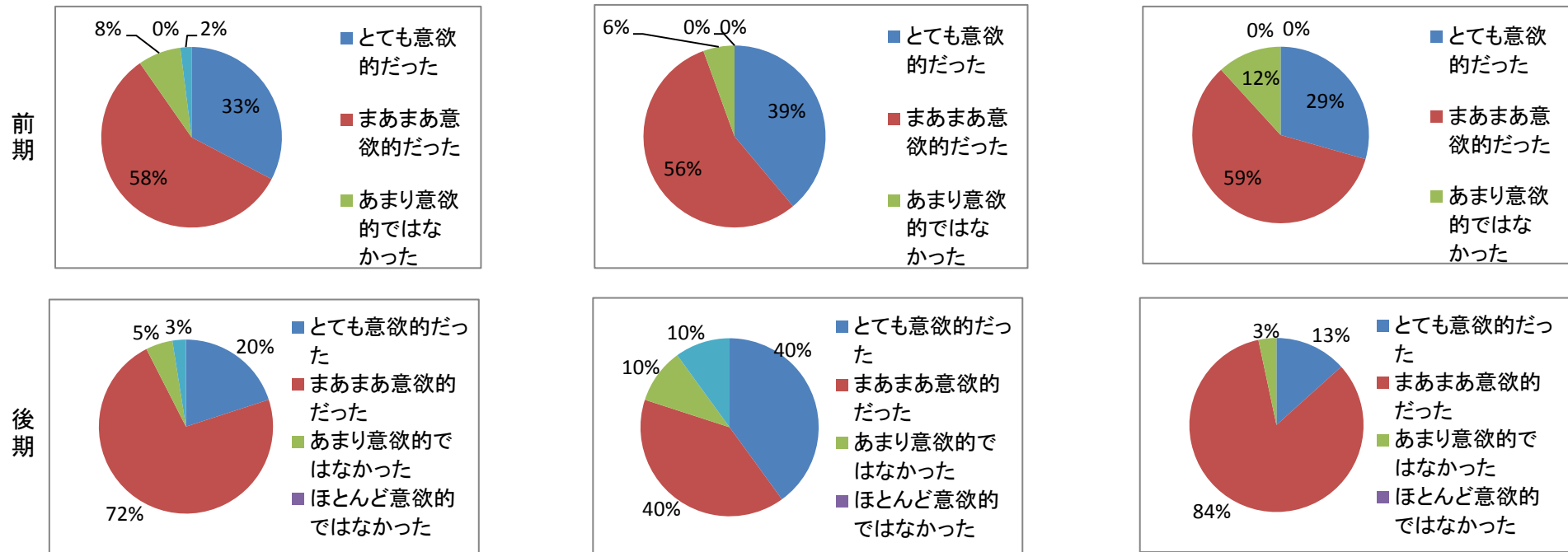


院生の学習時間は、1科目について週当たり3時間以上が40%で、1時間以上3時間未満が46%となっており、学習にかなりの時間を費やしていることがわかります。特にストレートマスターは、3時間以上と回答する者が現職より多く、他の質問項目でストレートマスターが学習内容が難しいと答えているのに相応した回答となってい



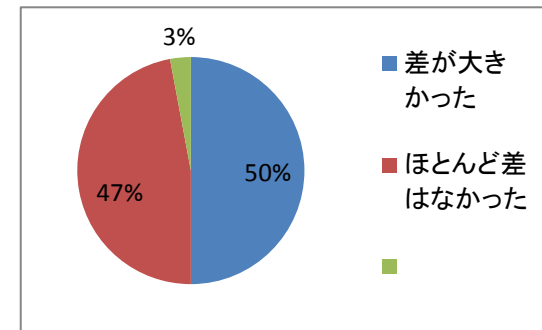
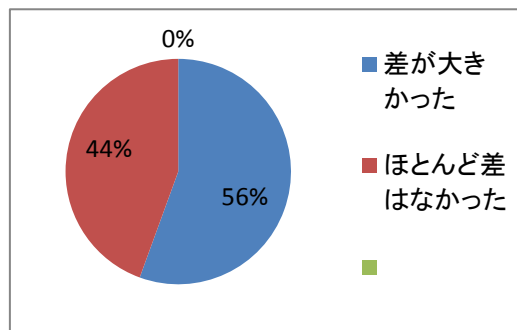
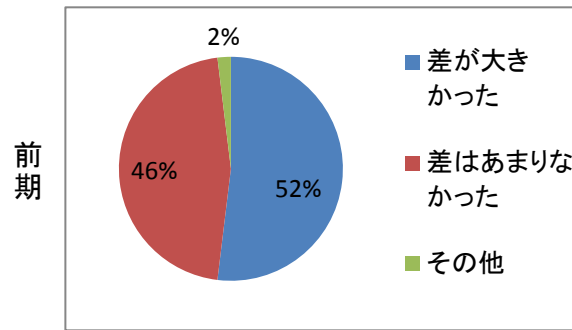
前期に比べて全体的に1科目に費やす学習時間は減っています。学習の仕方に強弱をつけることに要領を得たのか、単に怠惰になったのかはここからはわかりませんが、他の質問項目の回答から推測する限り、前者によるものだと思います。

Q5 あなたは、共通科目の授業に意欲的に取り組みましたか

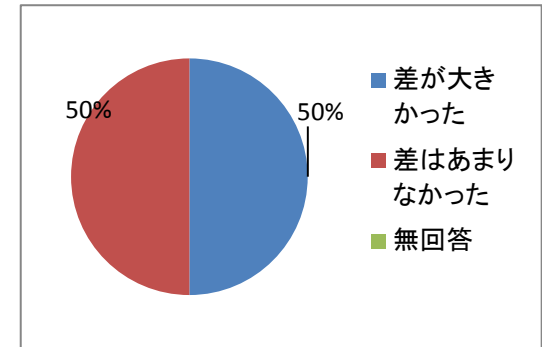
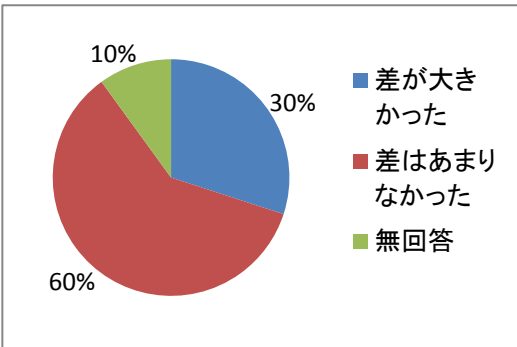
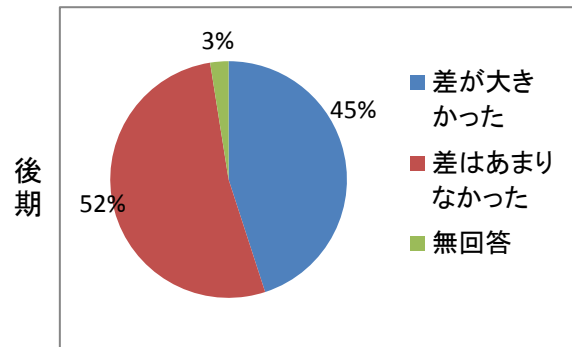


全体的に見ると前期とあまり変わりませんが、現職者で意欲がやや減退している点が気になります。Q6で見ると、授業内容が現職者にはやや易しかったためかもしれません。とはいえ、Q17で見ると、教員を続ける意欲については現職者は増えています。

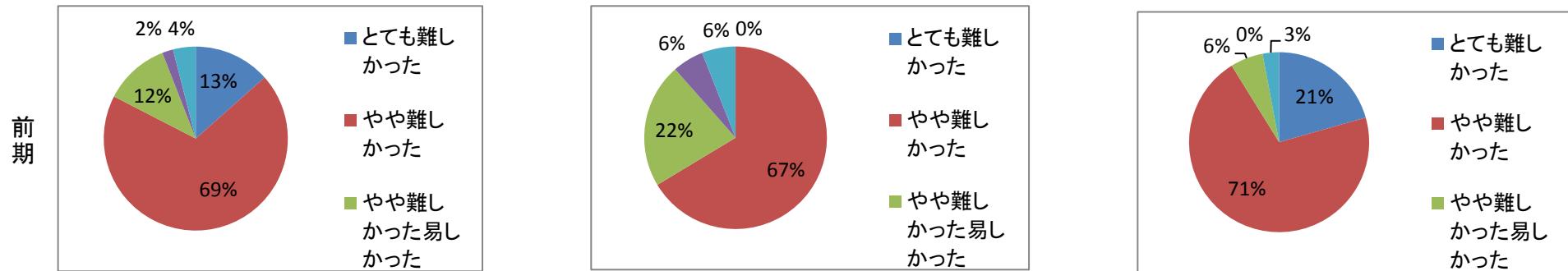
Q5-2 Q5について、科目による差はどうでしたか



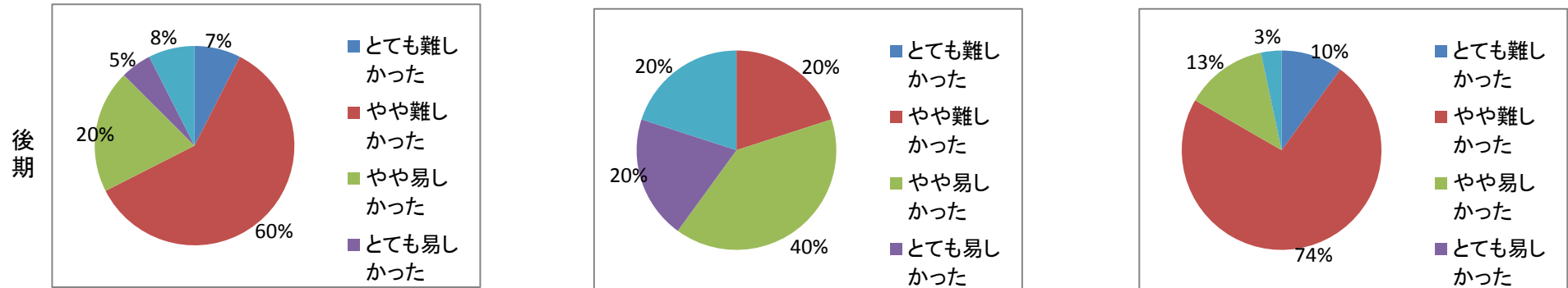
共通科目に対しては9割程度が共通科目に意欲的に取り組んだと回答していますが、その一方で、科目間による差が大きかったと半数が答えており、科目によって開



Q6 共通科目の授業レベルは、あなたにとってどうでしたか



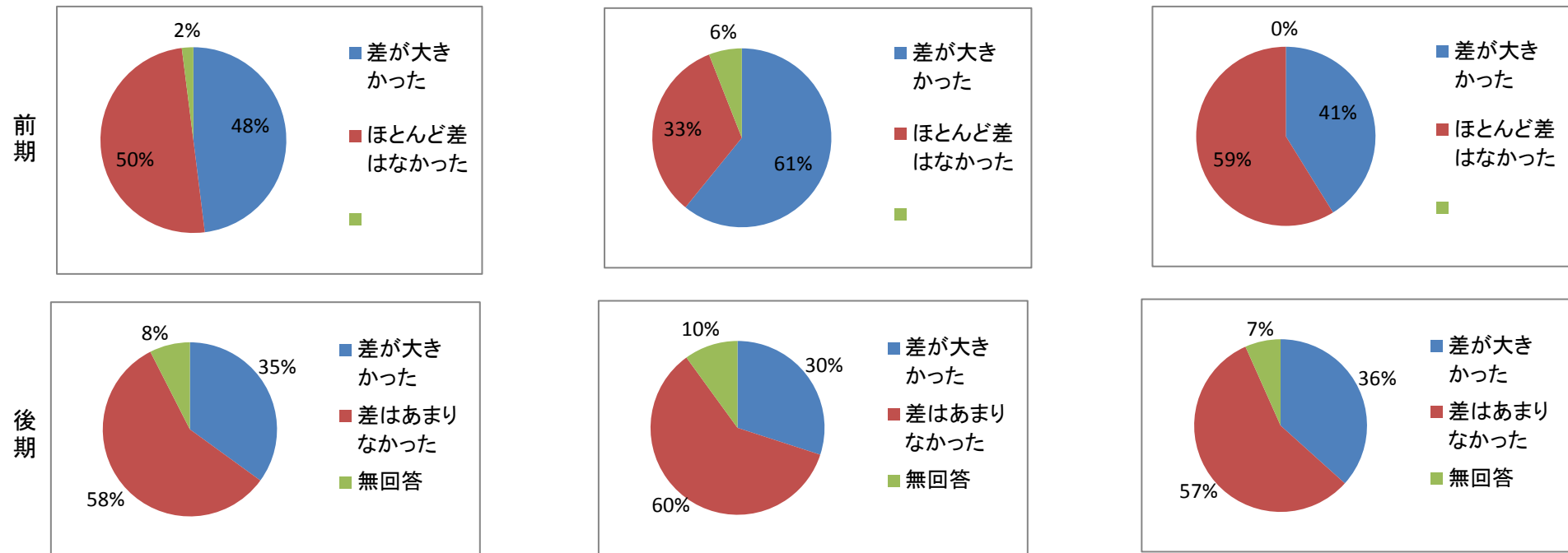
共通科目の授業レベルは、現職の7割、ストレートマスターの9割以上が難しいと感じています。授業が難しいと感じる理由がどこにあるのか検証し、早急に授業改善を



全体では「とても難しかった」「やや難しかった」が、前期82%から後期67%まで減っています。内訳を見ると、現職者では「やや易しかった」「とても易しかった」が60%に達したのに対し、ストレートマスターは「とても難しかった」「やや難しかった」が84%となっており、非常に対照的です。現職者とストレートマスターの開きが、後期により大きくなっているとすれば、授業の進め方等にも改善が求められるでしょう。

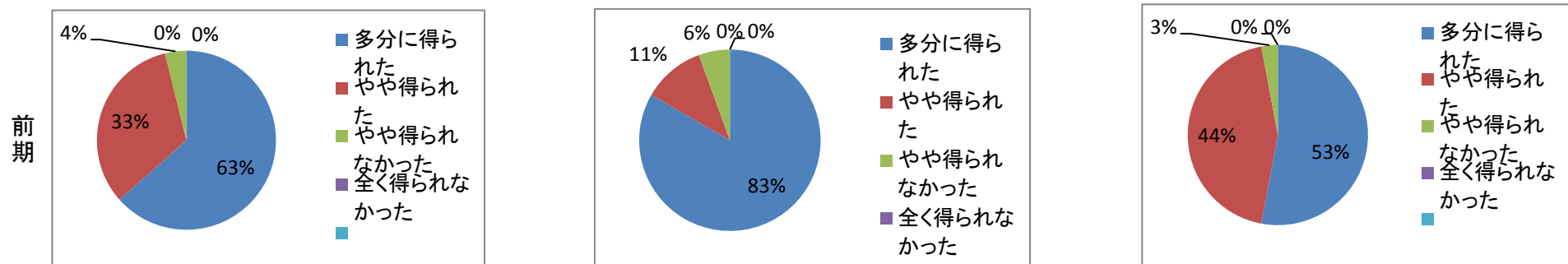


Q6-2 Q6について、科目による差はどうでしたか

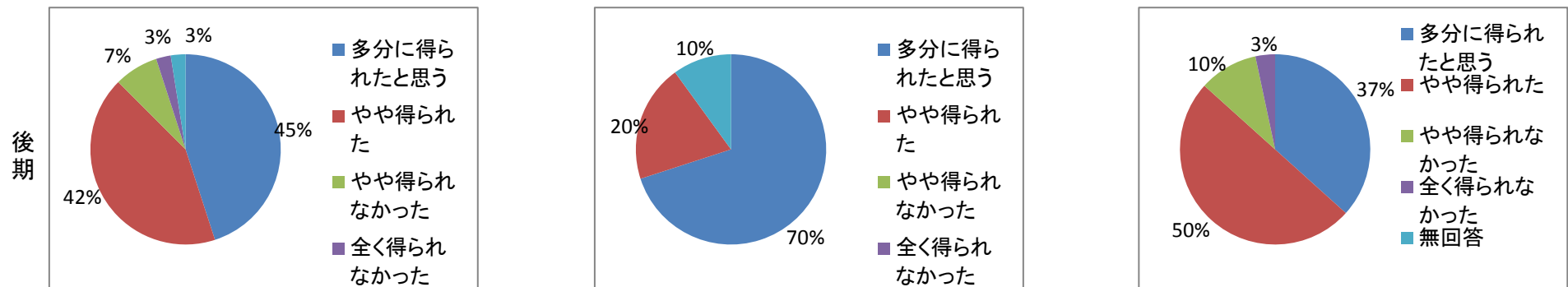


「差が大きかった」は、前期48%から後期35%まで減っており、科目間の差が若干解消されているといえます。

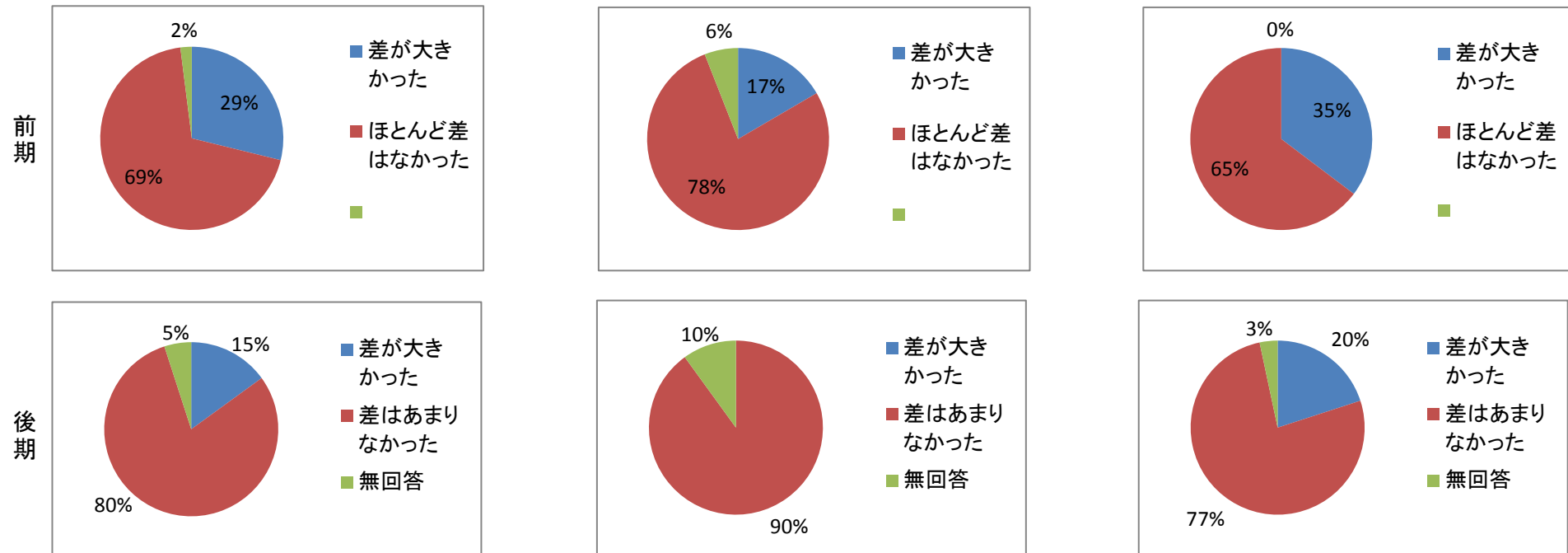
Q7 共通科目の授業の中で、発言・発表する機会は得られましたか



授業の中での発表の機会は、9割以上が得られたと感じています。各科目で院生中心に授業が進められていることを裏付けるものとなっています。

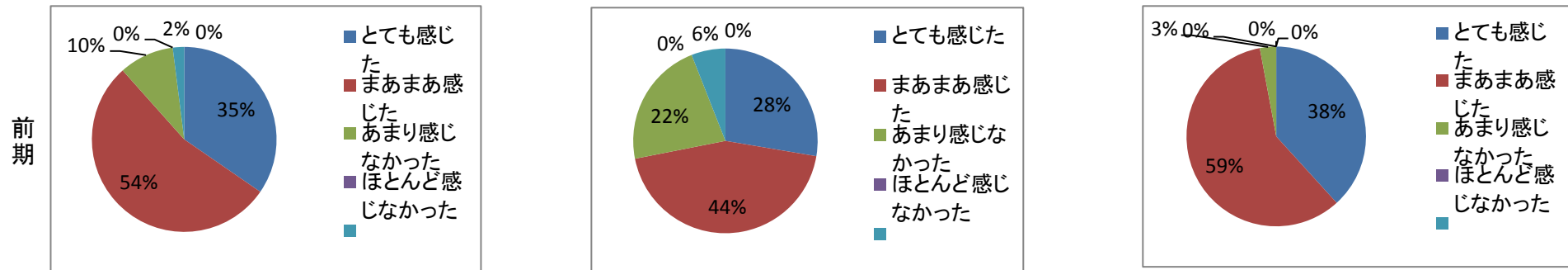


Q7-2 Q7について、科目による差はどうでしたか

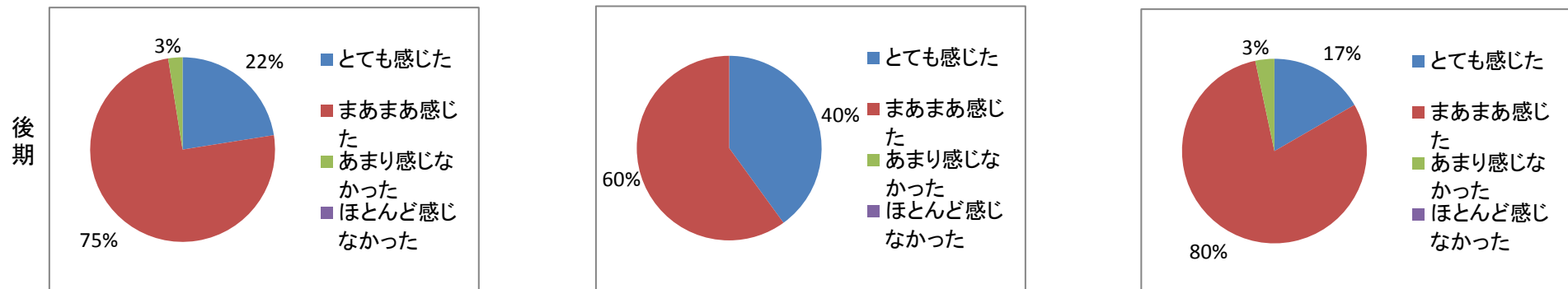


「大きな差があった」は、前期29%から後期15%と減少しています。発言・発表の機会についても科目間による差は前期に比べ小さくなっています。

Q8 共通科目の授業に対する担当教員の熱意を感じましたか

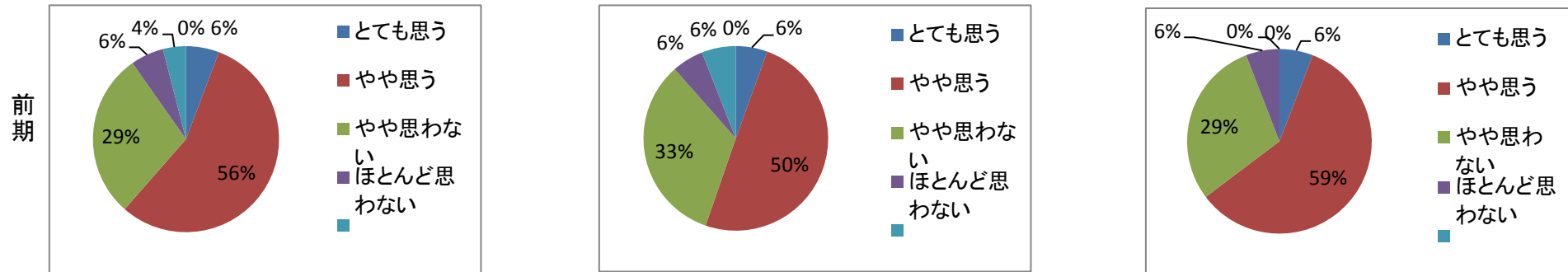


教員の熱意は全体で9割程度が感じています。ただこの項目に関しては、ストレートマスターは非常に肯定的に捉えている一方で、現職はやや厳しい評価をしていることがわかります。大学院の教員と同様、教職に就いている現職からすると、授業には熱意があって当然ということでしょう。

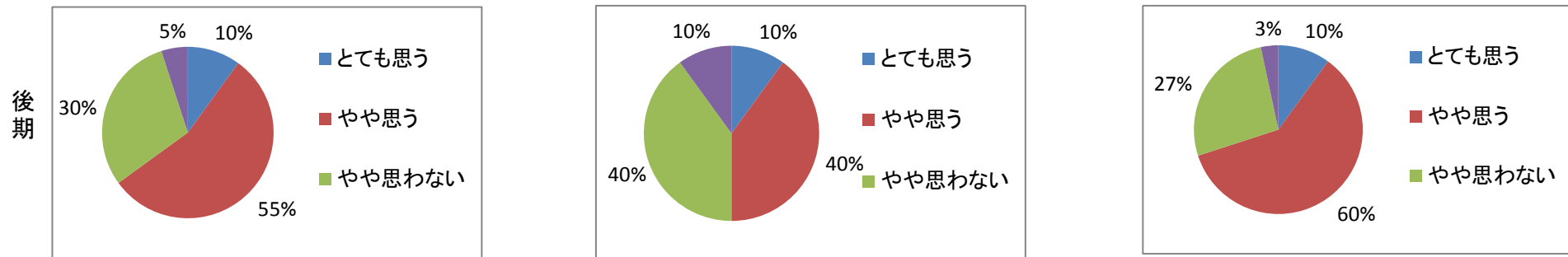


特に現職者で「あまり感じなかった」が、前期22%から後期0%となるなど、後期の方が担当教員の熱意を評価した回答になっています。

Q9 共通科目の授業は体系的でよくまとまっていたと思いますか



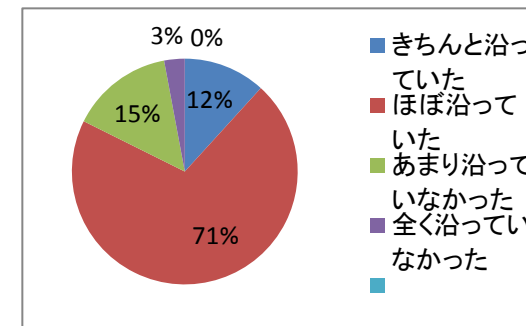
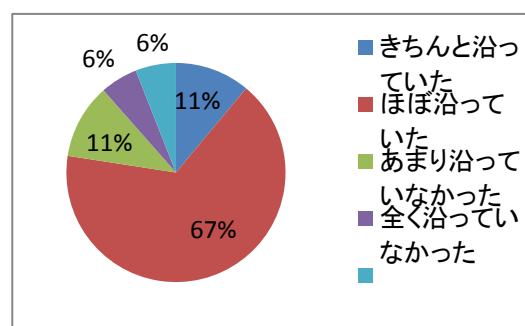
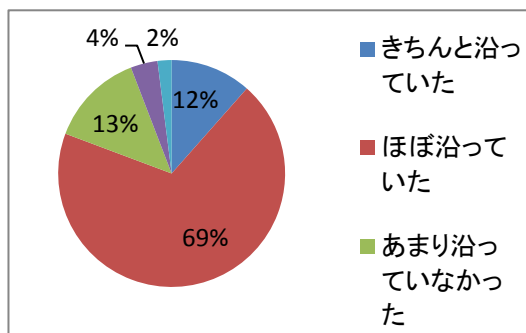
授業は体系的でまとまっていると答えている者が多い一方で、約3割の院生が「やや思わない」と答えています。これについても原因がどこにあるのか早急に究明し、改善す



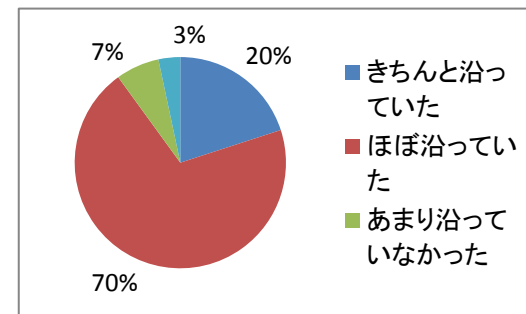
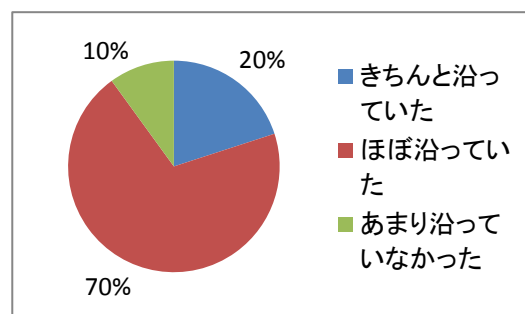
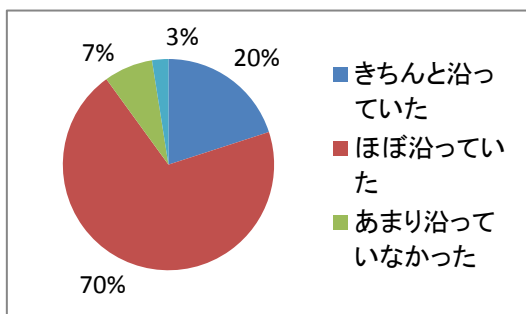
前期同様「やや思わない」が30%ほどを占め、特に現職者は「やや思わない」に「ほとんど思わない」を加えると、50%が否定的な回答をしていることとなります。授業内容が体系的になるよう担当教員には早急な改善が求められます。

Q10 共通科目の授業はシラバスに沿った内容でしたか

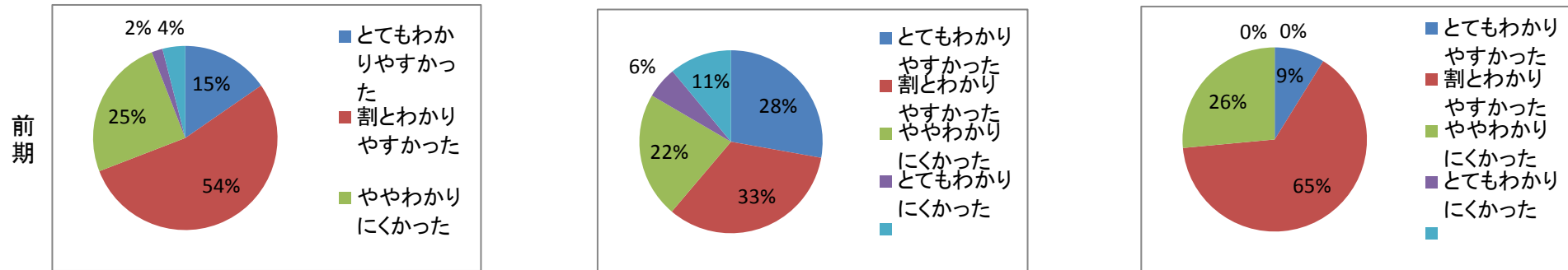
前期



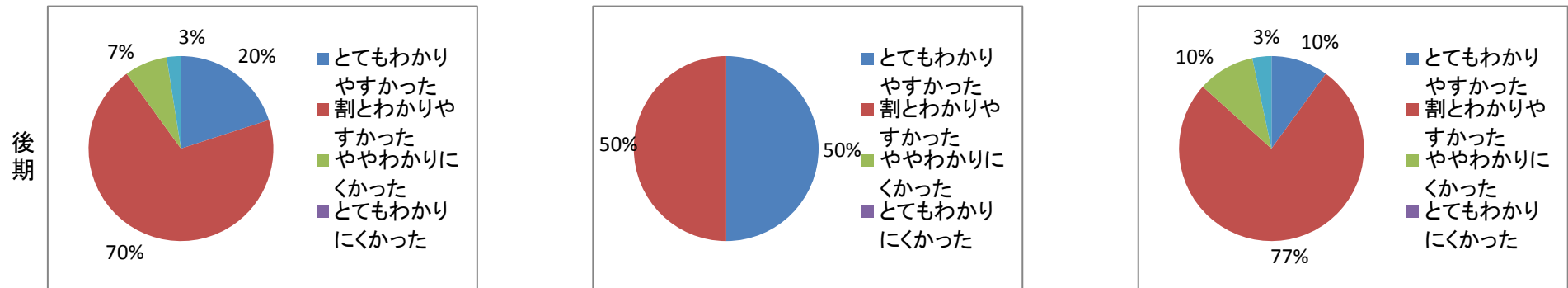
後期



Q11 あなたにとって、共通科目の授業の教員の説明はわかりやすかったですか



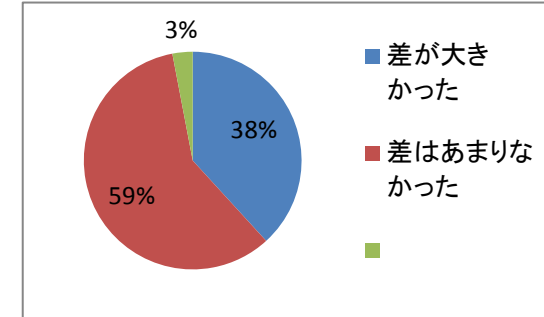
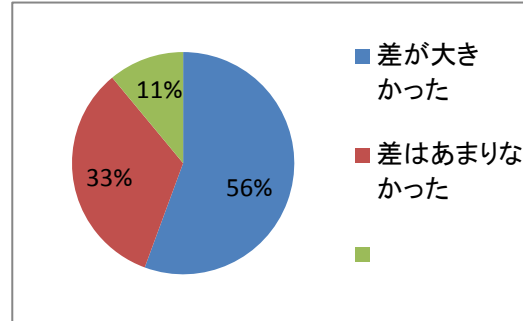
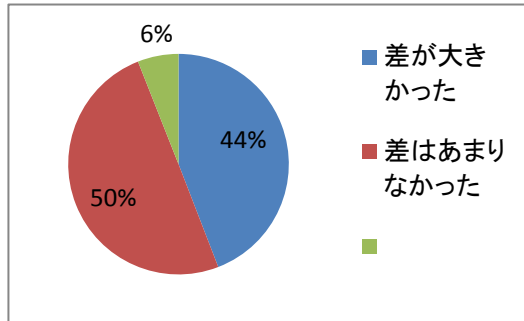
大学院の教員は、授業の説明がわかりにくいと感じている者が全体の4分の1程度いるという現実を重く受け止める必要があるでしょう。教員の説明がわかりにくいと感じている院生が一定数いるということ意識し、より配慮のある説明を心がける必要があるといえます。



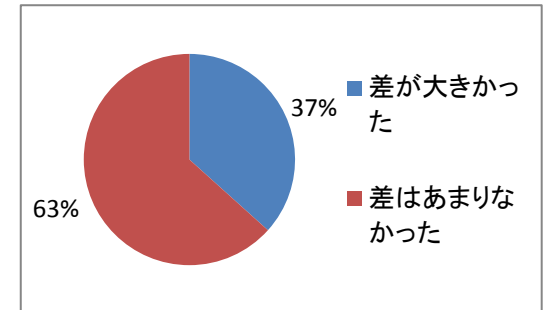
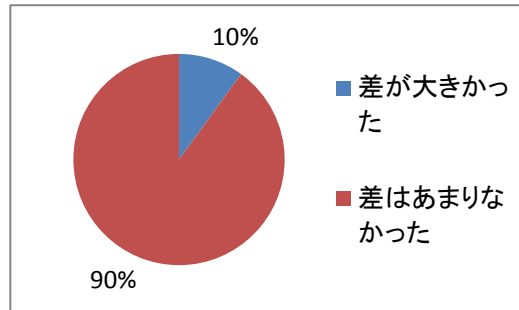
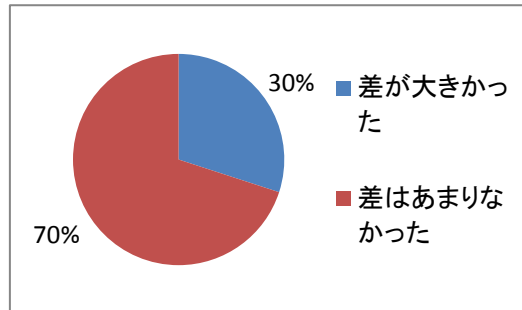
「わかりやすかった」「割とわかりやすかった」は、前期69%から後期90%に向上しています。院生が大学院の授業に慣れてきたのに加え、教員も前期FDアンケートの結果から反省し、わかりやすい説明をするよう心がけたことによるものだと考えられます。

Q11-2 Q11について、科目による差はどうでしたか

前期



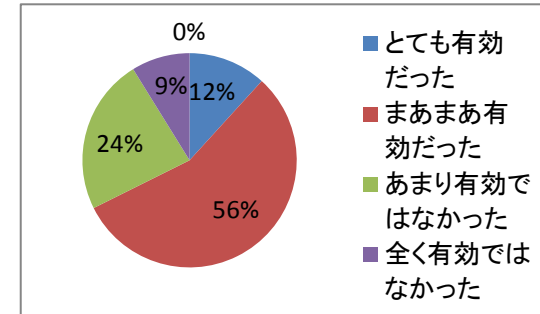
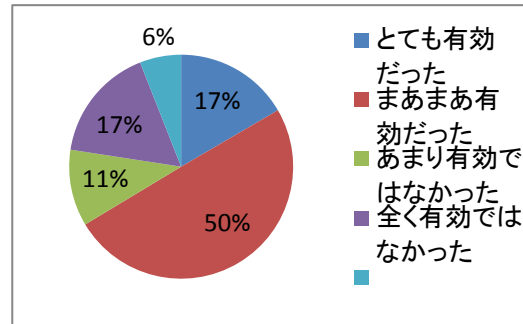
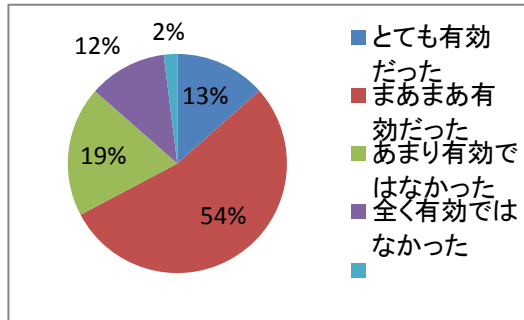
後期





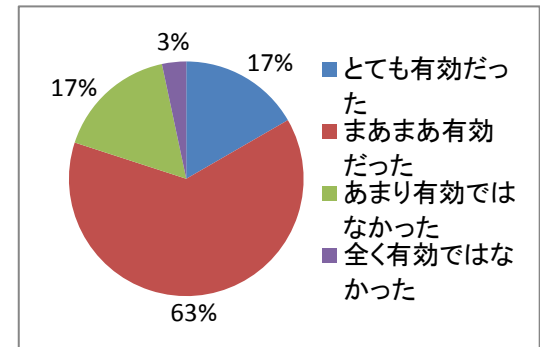
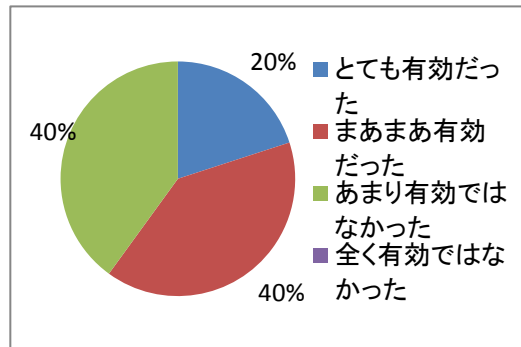
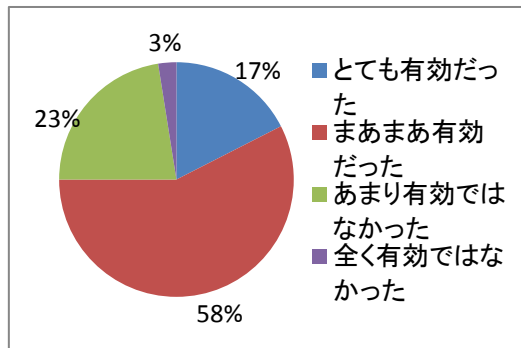
Q12 チームティーチングによる授業方法は、有効でしたか

前期



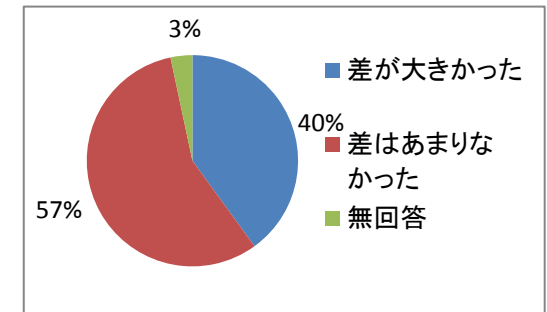
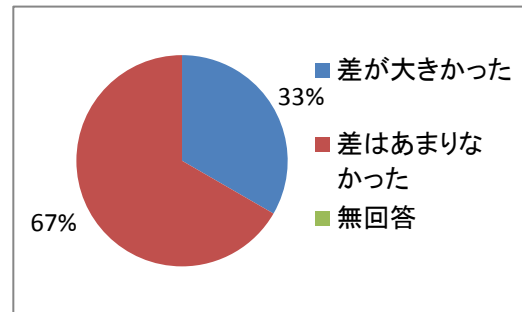
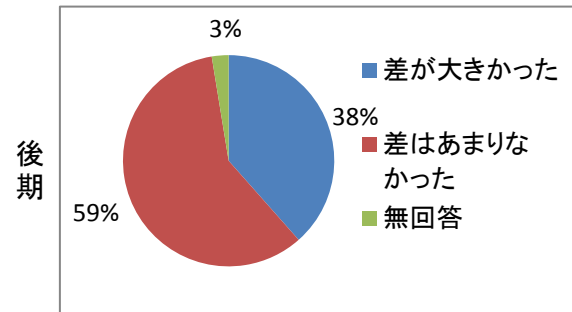
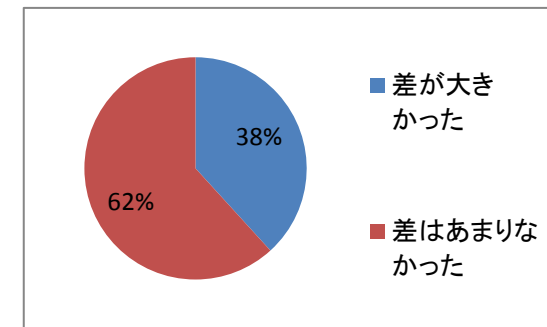
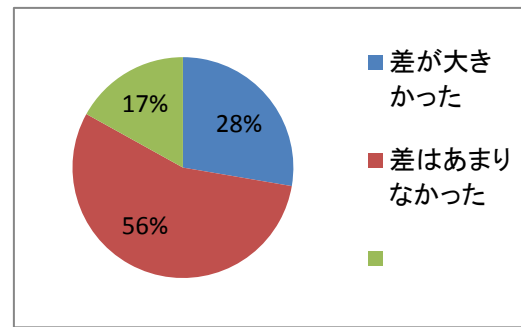
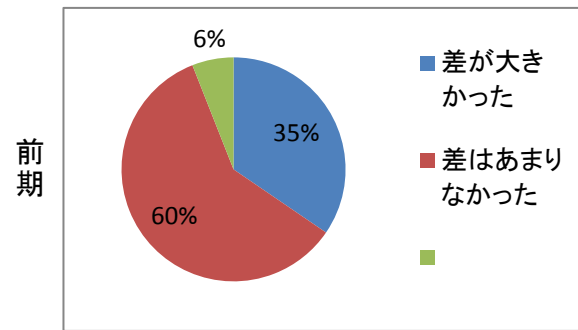
チームティーチングについては、6割以上が有効であったと答えている一方で、2割の院生がやや否定的に捉えています。教員と実務家のそれぞれの役割を再認識し、より有効に機能するよう反省し、後期に臨む必要があるでしょう。

後期



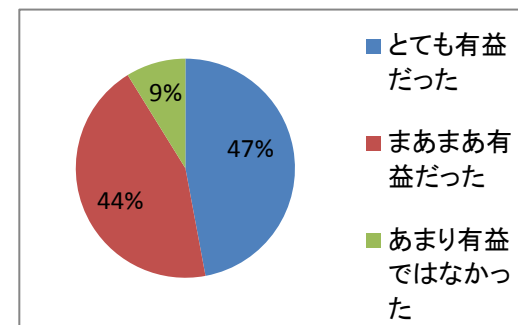
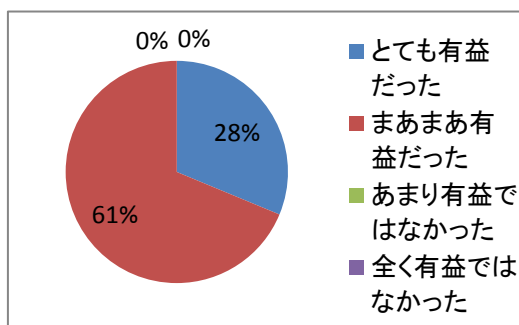
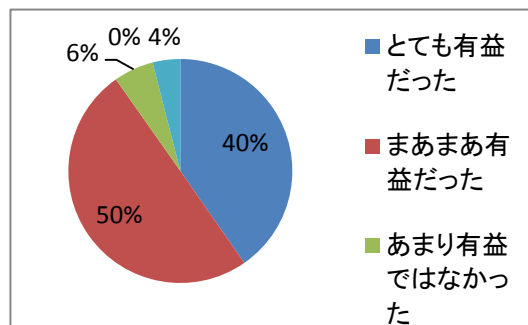
T・Tが「あまり有効でない」と見る回答が、前期に比べて減少していません。担当教員はT・Tの授業方法について、今一度検証する必要があるといえるでしょう。

Q12-2 Q12について、科目による差はどうでしたか



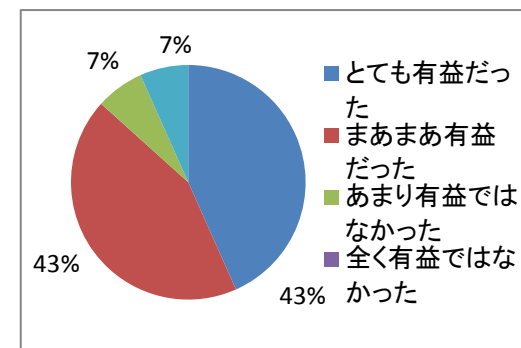
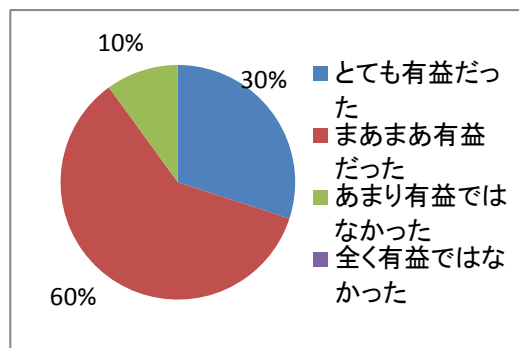
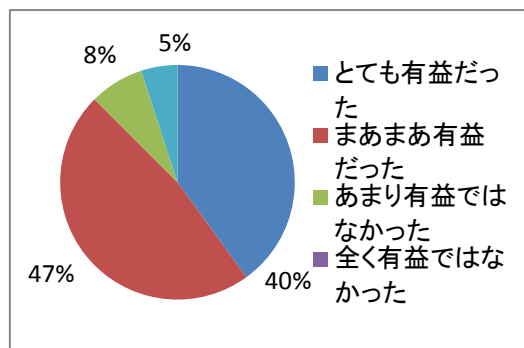
Q13 フィールドワークは有益でしたか

前期



フィールドワークについては、多くの学生が満足したと答えています。ストレートマスターはもちろんのこと、現職に関しても通常では訪問できないようなフィールドワーク先に教職大学院の院生として行けることもあって、満足度は高いと判断できます。

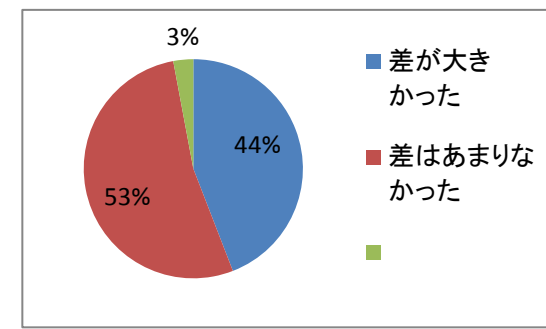
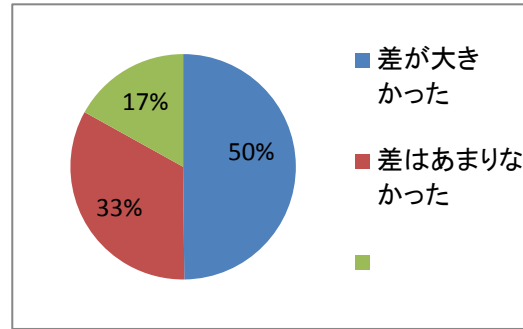
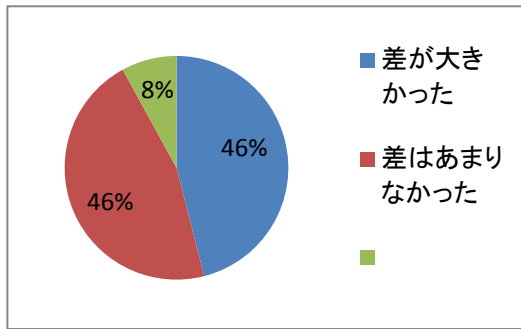
後期



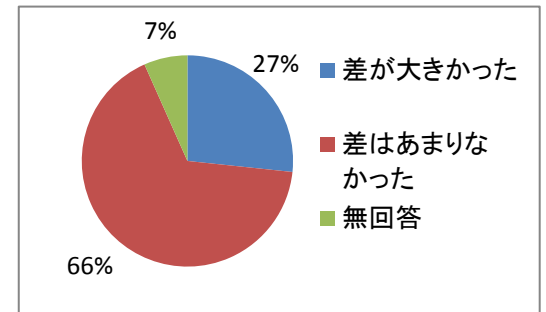
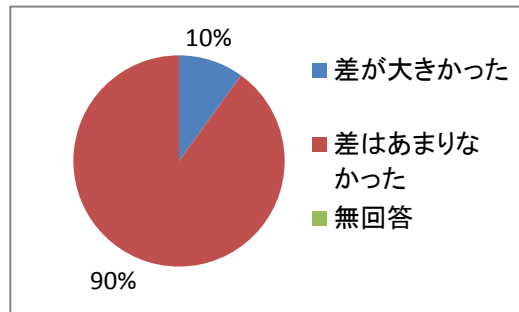
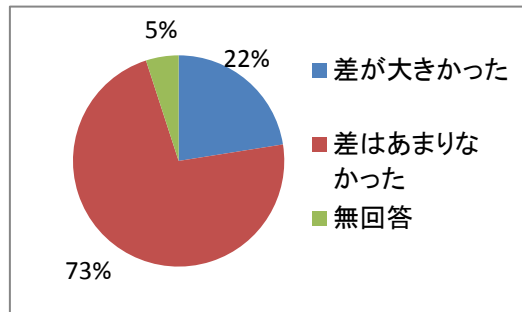
フィールドワークについては、前期同様評価が高いといえます。本年度については初年度ということもあり、同じ学校に複数回行く、フィールドワークの回数が多すぎるなどの不都合もありましたが、すでに大学院フィールドワーク担当者の方で、回数の削減を含め、次年度に向けて改善を図り始めています。

Q13-2 Q13について、科目による差はどうでしたか

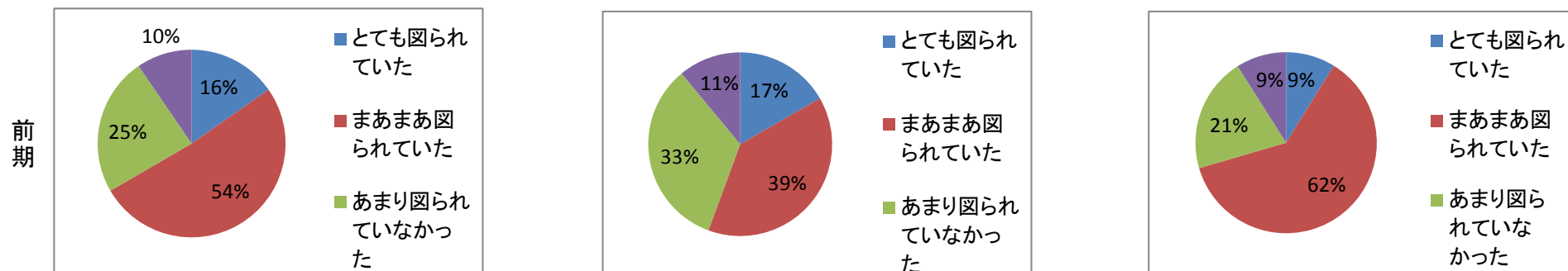
前期



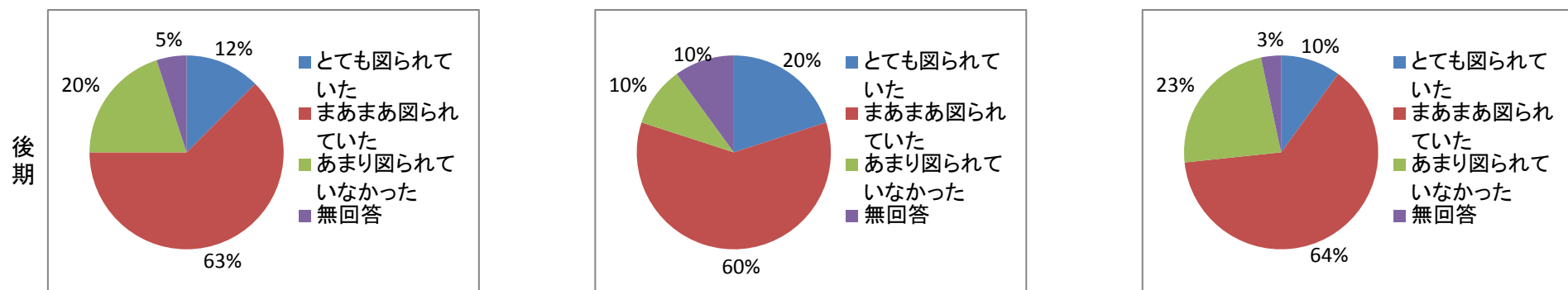
後期



Q14 授業では、理論と実践の融合が図られていましたか

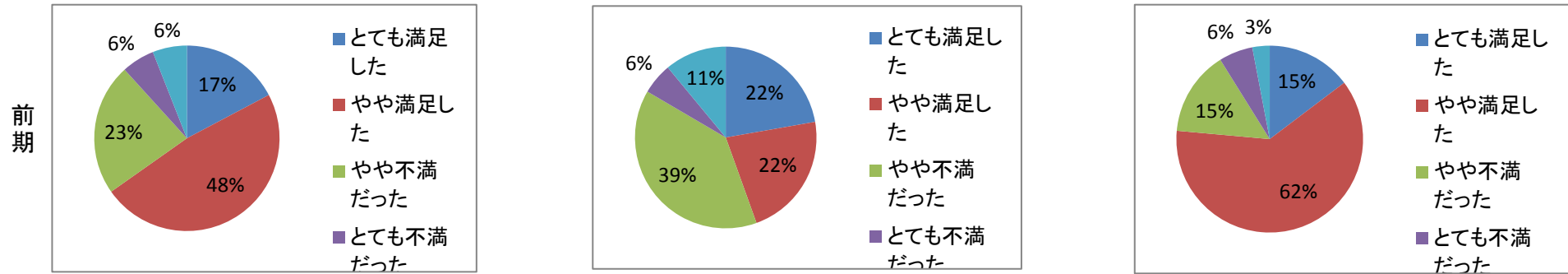


理論と実践の融合は全体として図られていると見られますが、2割弱で否定されています。フィールドワークを核にしつつも、その前後で行われる授業がうまく連動していないことも考えられます。今後はいかにうまくフィールドワークと理論をリンクさせるか、また授業に適したフィールドワーク先を選定するか等が課題になるでしょう。

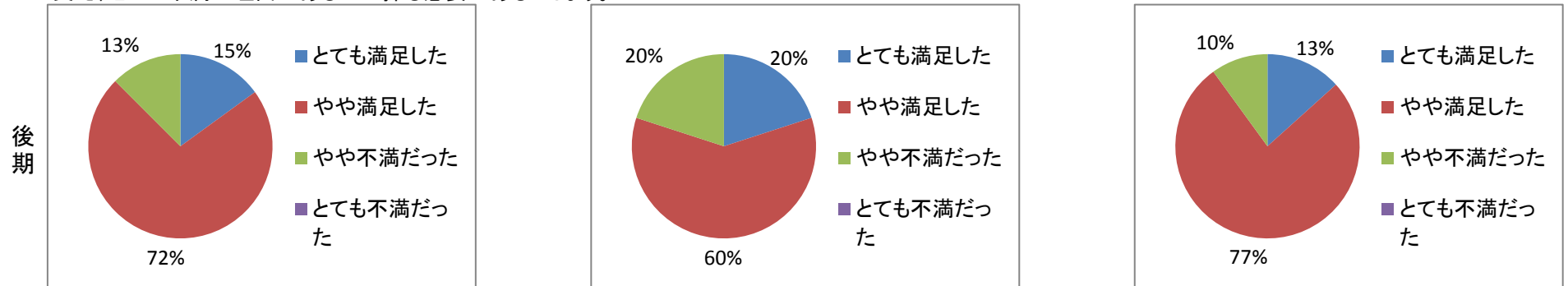


「とても図られていた」「まあまあ図られていた」が、前期66%から後期75%と少し向上しています。前期FDアンケート結果を受け、担当教員がフィールドワーク後の振り返りの時間を確保するなど改善をしたことが功を奏したと考えられます。

Q15 あなたは共通科目の授業を受講してどの程度満足しましたか

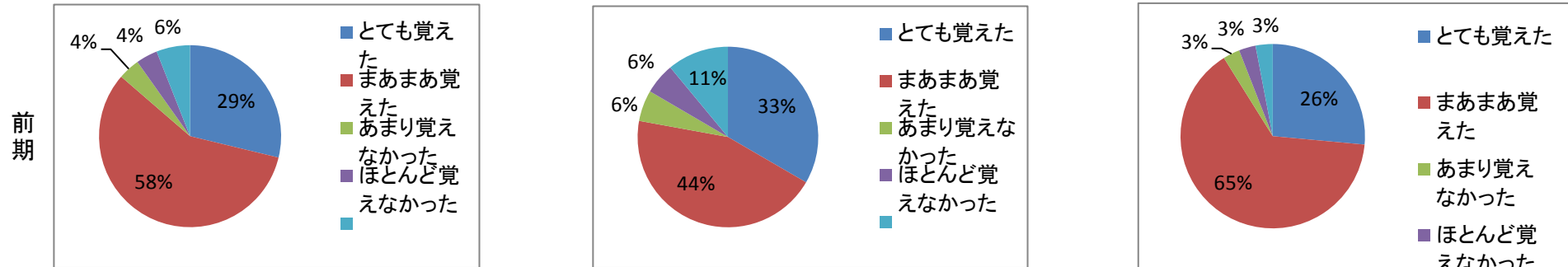


共通科目の授業に関しては全体におよそ満足しているものの、現職の約4割が「やや不満だった」と答えていることに注視する必要があります。今後インタビュー等も交え、どこに不満の理由があるのか探る必要があるでしょう。

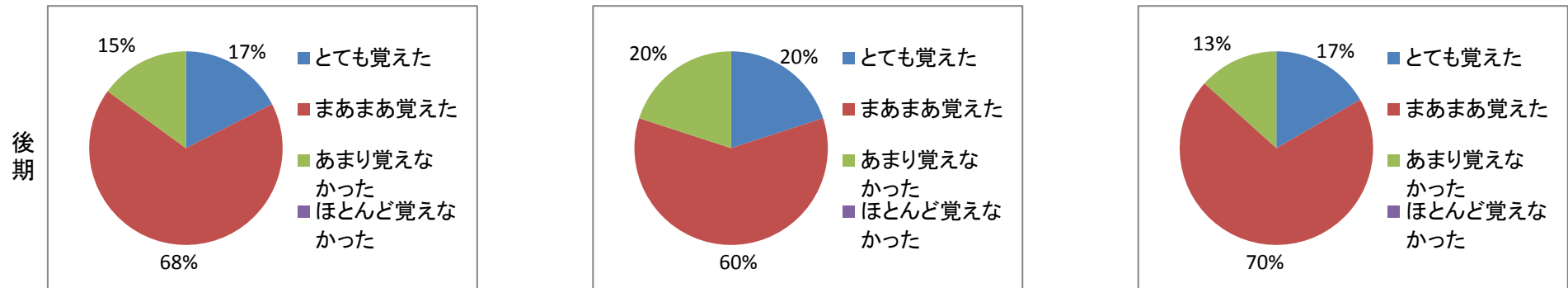


「とても満足した」「やや満足した」が、前期65%から後期87%と大幅に向上しています。

Q16 あなたは共通科目の授業で取り扱ったテーマ・領域に興味を覚えましたか

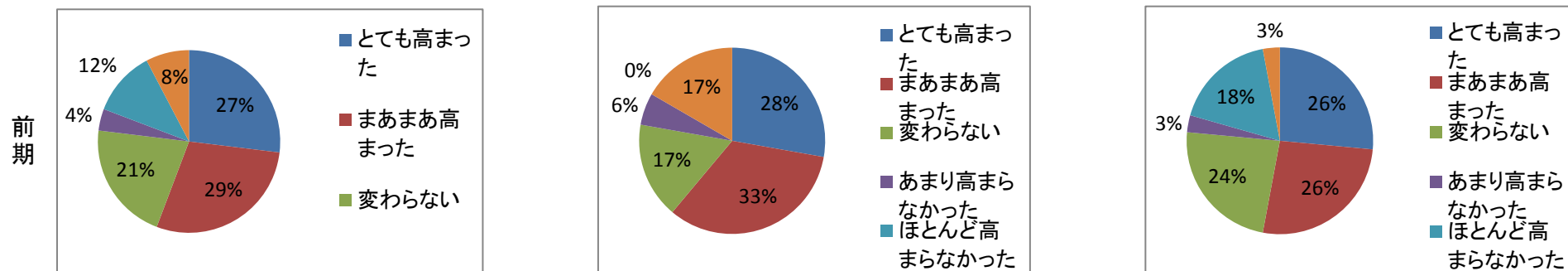


共通科目の授業で取り扱ったテーマ・領域に関しては、8割以上の院生が肯定的に答えており、共通科目が適切な形で院生の学びを支えているといえます。

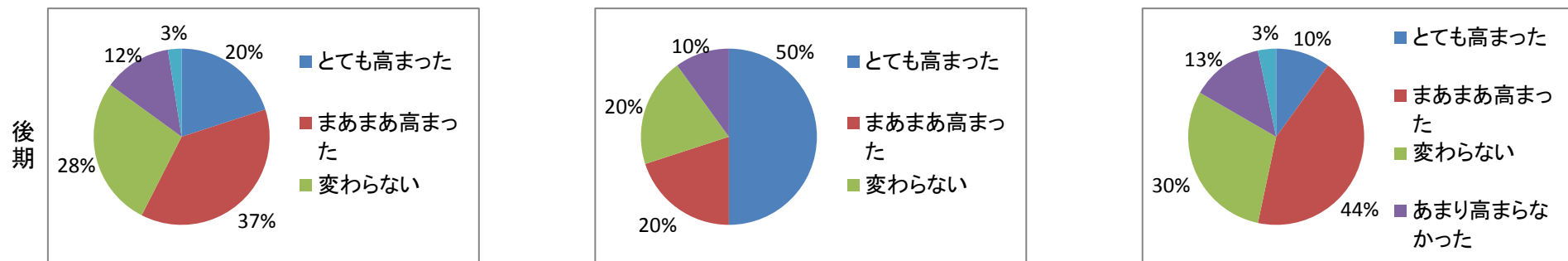


前期同様、8割以上の院生が興味を覚えたと肯定的な回答をしています。

Q17 あなたは共通科目の授業を受講して教員になる、または教員を続ける意欲や動機が高まりましたか



共通科目全体を通して: 全体に院生の評価は高いといえます。時間をかけてじっくりと学び、それが各自の力になっている様子が、アンケートから見て取れます。ただ、チームティーチングが有効でない、説明がやや難しい等の意見も少なからず見受けられます。院生の学びの実態を正確に判断しつつ、後期の授業に向けてさら



全体としては前期とあまり変わりませんが、現職者で「とても高まった」が28%から50%に増えている点特徴的です。